

平成28年度 学校評価 自己評価書

あま市立正則小学校

1 総括

(1) 教育目標（学校経営案より）

「夢をもち 未来を切り拓く ーかしこく あたたかく たくましくー」

ー 《めざす児童像》 ー

かしこく	……	よく見て	よく聞いて	よく考える子
あたたかく	……	思いやりのある	素直な子	
たくましく	……	体を鍛え	ねばり強く	取り組む子

児童のすぐれた個性を伸ばし、知・徳・体の調和のとれた人間形成を図るとともに、公共の精神を尊び、自他の敬愛と協力により創造的で活力に満ちた社会の発展に尽くす態度を養う。

(2) 本年度の重点努力目標

ア 学習指導の充実

- ・ 算数に少人数指導やT T指導を取り入れて、個に応じた指導の充実を図る。
- ・ 生きる力や確かな学力を身に付けさせるために、コミュニケーション能力の育成や言語活動の充実を図る
- ・ ユニバーサルデザインの授業を工夫する。
- ・ 対話的な学びを通じた問題解決的な学習や体験的な学習の充実を図る。
- ・ 家庭学習の手引きを作成し、家庭での学習習慣の確立を図る。

イ 豊かな心の醸成

- ・ 毎日のあいさつを大切にする。
- ・ 異年齢集団活動(すこやか活動)を教育活動に取り入れる。
- ・ 自己肯定感高めるために、コミュニケーションスキルやソーシャルスキルを利用した指導を充実させるとともに、内面に根ざした道徳の充実に努める。
- ・ 歌声の響く学校にする。

ウ たくましい心身の育成

- ・ 体育授業の改善や休み時間の外遊びを通して、体力の向上に努める。
- ・ 食育指導や保健指導、保健集会などを通して、健康的な生活づくりに努める。

2 自己評価の実施体制

(1) 調査時期 平成28年12月12日

(2) 調査項目 別紙アンケート質問紙参照

(3) 調査対象 有効回答者数／対象者数

・ 児童	283名／	全284名	・ 学校評議員	5名／	全5名
・ 保護者	211名／	全216名	・ 教職員	22名／	全22名
			合計	521名／	全527名

3 調査結果【資料として添付】

別紙 資料「学校評価のまとめ」・アンケート結果参照

4 考 察

- (1) 全体を通して、昨年度よりやや数値が上がった項目が多かった。教職員の努力によって、昨年度より児童が落ち着いて学校生活を送っているためである。どのアンケート結果からも大部分の児童は、学校生活を楽しみ満足して過ごしている様子を読み取ることができる。しかし、心のアンケート結果(10/17実施)から「ときどき学校に行きたくないと思うことがある」と答えた児童は、合計19人(6.8%)いた。
- (2) 学年別に見ると、児童アンケートの結果、「進んで自分の考えや意見を発表している」と答えた児童は、5・6年生の得点が低くなっている。心のアンケートの結果でも5・6年生で学習について悩みをもつ児童が20～25%いた。学年が進むにつれ、学習内容の難度が上がり、到達度の差が拡大していることとの相関関係もあると考えられる。

※詳細は別紙「学校評価のまとめ」及び「学年別集計表」参照

- (3) 本年度、家庭での読書習慣が昨年度と同様に低く、さらに低い結果となった。算数の学力向上のために朝の読書タイムをやめてスキルタイムにしたことが原因であると考えられる。家庭での読書習慣の定着と図書室利用者の増加を図る工夫が必要である。
- (4) 学校評議員会では、保護者が自分の子どもをかわいがり過ぎて、我が子の言うことのみ信じて、大きな声を出した保護者が勝ち、被害者側が悪いようになって我慢している保護者も子どももいる。心のケアをお願いしたいという指摘があった。具体的改善に役立つ貴重なヒントが多くあり、謙虚に受け止め対応していきたい。
- (5) 教職員による評価については、全ての項目で、得点が向上しているが、「道徳の授業を計画的に進めている」が昨年度と同様に最も低かった。行事やその準備などで計画的に進められていないので、カリキュラム通りに授業が進むよう学校行事等の見直しが必要である。また、児童のあいさつや言葉遣いは昨年度よりよくなっているが、さらによくなるように教職員が一丸となって指導していきたい。常に教職員に対して、具体的な目標を意識させ、より具体的な方策を示すことなど、今後とも研鑽を積みながら取り組むことが必要である。

5 成果と課題

- (1) 昨年度から、「学び合いを通して問題解決していく児童の育成」をテーマとして算数の現職教育に取り組んできた。また、どの授業の中でも話し合い活動を意識的に取り入れ、「自ら考える場」から「学び合いの場」へと流れをつくることで、自分の考えを発表したり、さまざまな考えや表現方法があることに気づかせることができた。しかし、児童のアンケート結果にあるように「進んで自分の考えを発表している」児童は少ないという結果であった。さらに児童のモチベーションを高められるような取組を導入して一層のレベルアップを図りたい。
- (2) いじめ問題や学校不適応問題への対処として、年2回の児童へのアンケート調査に加えて、学級担任との面談の時間を設けている。このことが、教師にとっては児童の心情理解につながり、また児童にとっては学校生活上の安心につながっている。勤務日の少ないスクールカウンセラーとの連携をさらに効果的に行えるようにしていきたい。
- (3) 基礎学力(特に算数の力)をつけようと、火～木曜日にスキルタイムを設けたり、少人数指導とT・T指導体制を導入したりしている。学力検査の数値では、やや成果のあった項目があるが、努力を要する項目も多くあった。

- (4) 体力向上が大きな課題となっている。持久走カードや縄跳びカードを作成して、児童に目標をもたせ、持久走大会前の6分間走タイムを企画したり、縄跳び名人の証明書を発行するなど、体力向上に努めてきたが、残念ながら成果につながっていない。体育の授業の見直しを含めて、次年度以降も継続して取り組みたい。
- (5) 学校評議員からは、児童の学習態度がよく、児童が主体となって授業が進められていると称賛のことばをいただいた。また、地域に密着した取組が多くあり、地域全体で正則小学校を育てていきたいとの言葉があり、地域連携の活動や保育園と小学校との交流活動や中学校との連携を今後も継続していきたい。また、保護者のネットワークはよくも悪くもすぐにラインで広がっていくので、正確な情報を流していく必要がある。

6 改善策

(1) 学習面

- ・ 道德の授業を計画的に進める。
- ・ 算数では、スキルタイムで基礎学力の定着を図る。現職教育で算数的活動を取り入れ、思考を視覚化する活動をとおして、友達と学び合って主体的・協働的に問題解決していく児童の育成を図る。
- ・ 個に応じた指導をしていることが、保護者の理解を得られるように、授業公開時に少人数指導やT・T指導をしている様子を積極的に公開していく。
- ・ 家庭での学習習慣の確立と自己の学習状況を確認のため、家庭学習の手引きを改善して配布する。学習用具の忘れ物がなくなるように、保護者との連携を強める必要がある。特に高学年においても連絡帳をうまく活用したい。
- ・ 児童図書や読み聞かせの様子を紹介など、家庭への啓発活動をより一層進めることにより、家庭での読書習慣の確立を図っていく。

(2) 生活面

- ・ 体育授業時に筋力と柔軟性を高める運動を取り入れたサーキットトレーニングを行う。日常生活の中でも継続的に体を動かす習慣づくりを啓発していく。
- ・ 食育指導や保健指導、保健集会等を通して、健康的な生活づくりを支援していく。
- ・ 心の教育として、自己肯定感とコミュニケーションスキルを高めるために、月1回、道德や学級活動でソーシャルスキルトレーニングを今後も継続して行う。
- ・ 年2回行っている教育相談（児童・担任で行う二者懇談）の他にも、相談の機会を随時設けていく。特定の児童については、教師が意図的に居場所づくりを模索していく。スクールカウンセラーとの連携を密にして、悩みのある児童や保護者を面談できるように声をかけていく。
- ・ 大きな声で、目を見て、誰にでも、自分からあいさつができるように、児童が主体的に取り組めるような仕組みづくりやPTAの関わり方を検討する。

(3) 学校運営面

- ・ ベテラン教員と若い教員との組み合わせを基本にして、学年組織や校務分掌等を見直すとともに、学年の枠を超えて効率よく学校運営ができるよう工夫する。
- ・ 学校行事を精選したり、年間カリキュラムを見直したりして、教育課程が円滑に進むよう工夫をする。また、児童会活動やクラブ・部活動のあり方について、職員間の共通理解を図る。
- ・ 施設設備の充実や大規模改修について、長期的な展望をもてるよう市教委と相談していく。